



2024. 5. 14

校長室の窓から・・・⑭ いじめゼロ集会を経て

今年度も子供たちの様子を伝えながら、私の思いや考えをお伝えする機会をいただければと、「校長室の窓から」を発行したいと思います。バックナンバーも残っていますので、1年生の保護者の方も見ただけだと嬉しいです。

学校HPにも載っていますが、5月9日にいじめゼロ集会が行われました。全校で「いじめゼロ宣言」をし、「学級の宣言」を各クラスが行いました。それぞれの宣言の内容は昇降口に掲示していますので、学校へいらした際に見ただけだと嬉しいです。それぞれの発達段階に合った宣言がなされていました。生徒指導主任からのSOSの出し方について話があった後、私から子供たちに話をしました。低学年には少し難しい内容だったのですが、以下にご紹介いたします。

それぞれのクラスの「宣言」は、よく考えられたものでしたね。(中略)6年生の宣言の中に「相手の心情を考え、個性を認め」とありました。さすが最高学年！実は、今日私がとても伝えなかったことです。少し難しい話かもしれませんが聞いてください。「自分はいいと思っても、相手はいいと思わないことがある」ということです。

ちょっと例をお話しします。外遊びするときの紅白帽子は何色ですか？(1年生あか！2～6年生しろ！と元気よく返事)そうですね。1年生をみんなで見守るために、1年生だけが赤帽子で遊びます。でも、うっかりすることは誰にでもあることで、時々赤帽子の2～6年生がいます。先生はそう言う人を見つけて「あれ？赤帽子になってるよ」と声をかけるのですが、「えへっ。」と笑う人、失敗した！とちょっと悲しい顔をする人、「体育で赤にしたから」と理由を話す人と色々います。みんなだったらどんな反応しますか？実は先生は、注意するつもりは全然なく、「赤だと1年生になっちゃうよ！もう～かわいいなあ～」という気持ちで声をかけているのです。だからもし自分がそう声をかけられたら「えへっ」って反応します。でも、実際は悲しそうな顔をする人が何人かいたのです。「ああ、いやな気持ちにさせちゃったな。」と反省しました。自分は軽い気持ちで声をかけたのに、同じに感じるとは限らないんだなと。相手がどう考えるかって難しいですね。だから、相手の気持ちを思いやるってとっても大変なんです。だから、みなさんでお互いを思いやり「いじめゼロ」を目指すのはもちろんだけれど、いやだなと思ったことがあったら相手に伝えていいし、もし伝えられなかったら周りの人に相談してほしいです。先生たちはしっかりみんなの相談を聞いて、解決に向けて努力するし、先生たちも困ったら学校以外のいろいろな大人にも相談します。先生たちは、いじめは絶対に許さない。いろいろな大人の力も借りて、協力し合うので、みんなも困ったことがあったら相談してほしいです。みなでいじめゼロを目指しましょう。